茨城農業の将来ビジョン作成に向けた第２回有識者会議　議事概要

１　日時 令和５年４月１４日（金）14：00～15：55
２　場所 県庁17階　農林水産部会議室
３　出席者 別添出席者名簿のとおり
４　委員からの主な意見

ビジョンについての総論

・国としてゼロカーボンの実現を目指している中で、農業分野における環境への対応等の内容を入れ込んではどうか。
・儲かる農業の仕組みづくりに向けては、規模拡大やブランド化、付加価値向上、低コスト化の視点が必要ではないか。また、茨城県は交流人口が期待できるため、観光農業の推進による収益性の拡大を目指してはいかがか。
・綺麗な将来の姿ばかりではなく、今まで県が行ってきた施策に対する反省点や成果を踏まえることも必要ではないか。
・大規模な経営体や異業種の参入があった際に、それらを既存の経営体と上手く調和させ、地域の中でシナジー効果が発揮できるように検討していただきたい。

米について

・米の価格や消費が急激に伸びることはないので、大規模化する地域、戦略作物を作付する地域、畑地化する地域に分けて推進していくべきである。
・畑地化するとなかなか水田に戻せないので、いずれ水田に戻せるような汎用化耕地を優先して推進するべきではないか。

畜産について

・畜産は飼料価格等の高騰の影響で本当に厳しい状況にある。ブランド化の推進や耕畜連携による国産飼料の利用拡大を推進することが必要。
・ヨーロッパでは有機農業の半分くらいは畜産であり、有機畜産という分野がある。また、アニマルウェルフェアの考え方は海外では重要なポイントとなっており、将来に向けた課題。
・酪農や養鶏業の方向性も示した方がよいのではないか。
・常陸牛のブランド化には期待している。その中でトップブランドにするには、他の銘柄牛のような何か物語性のあるものが必要ではないか。

露地野菜、施設野菜について

・収益性を上げるのに一番必要なのは労働力である。技能実習生も条件面で海外に流れてしまう現状にあり、日本人を雇用したいといってもなかなか定着しない。労働力の問題を真剣に考えていただきたい。
・ある程度のロットが無いと売り先が見つからないので、大量生産は茨城の強みでもある。他産地との差別化については、県外産地とのリレー出荷を考慮するべき。
・県全体で何かトップブランドみたいなものを作っていく形が必要。
・いかに農業者が価格に対して主体的に関わることができるかが重要である。価格決定力を持つから有利販売ができ、収益性も高くなるというような考え方が必要ではないか。
・契約栽培は農業サイドでの価格転嫁が可能であるが、市場出荷ではそれはできない。契約栽培を推進していくためには、加工業者の誘致が一番大事である。企業誘致においては、行政主導による食品加工企業の用地の受け皿づくりが重要。

有機農業、輸出について

・有機農業や輸出の推進に当たっては、農業サイドが損をしないように出口をよく検討していただきたい。また、人材育成の視点も重要である。
・輸出は、余ったものを輸出するのではなく、輸出先の志向に合ったものを生産するという意味で品種改良は重要なのではないか。また、知財の活用や、栄養面の機能性に着目した生産等により付加価値を高めることもポイントではないか。
・輸出で採算を取るには、継続的な取組が必要であり、それには信頼の確保に繋がるGAPの取得が必要である。できれば、県のオリジナルGAPを設けていただけるとありがたい。

総括

・第三者からこのビジョンの内容が問われたときに備えて、評価指標についても併せて検討するべきなのではないか。
・ビジョンを作成することが目的となってはならない。最終的には農業者の所得の向上を図ることができるように、施策への落とし込みをお願いしたい。